

指定管理者評価表

様式1

1 基本情報

(1) 公の施設の名称	
堺市立美原文化会館	
(2) 施設の設置目的	
市民文化の創造及び振興に寄与すること	
(3) 所管部局	
文化観光局 文化部 文化課	
(4) 指定管理者名	
公益財団法人堺市文化振興財団	
(5) 指定期間	
平成27年4月1日から令和2年3月31日まで（5年間）	
(6) 主な事業	
<ul style="list-style-type: none">・貸館業務をはじめとする施設の管理運営に関すること・ホールなどを活用した文化芸術振興事業を行うこと・施設設備の維持及び修繕等、保守管理に関すること・消防訓練や避難経路の確保を行い緊急時の対応に備えること・市から貸与を受けた備品を適切に管理すること・利用者の意見を管理運営に反映させるため、アンケート等による意見聴取を行うこと・自主事業に係る業務に関すること	
(7) 有料施設の有無	
有（利用料金制）	
(8) 公募・非公募の別	
公募	
(9) 主な利用者	(10) 市内における受益対象者数
市民	不特定多数
(11) 近隣の類似施設名及び当該施設の評価に用いられている指標	
SAYAKAホール	

2 管理運営状況

(1)特筆すべき事項(地域貢献等の実績、取組、成果等)

堺市立美原文化会館運営委員会の設置や、美原区の地域振興団体の行事等との協働など、地域コミュニティを大切にしながら事業展開を行い、市民ニーズを反映した管理運営を行っている。

(2)利用者サービス

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
指定管理者名	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団	公益財団法人堺市文化振興財団
ア 利用者数 (人)	139,849	143,663	134,063	135,685	
利用者数の算出方法	文化芸術振興事業、自主事業、貸館事業等で美原文化会館を利用した人数				
市による状況分析	平成30年度は天災・工事により事業が実施できなかったこともあり、利用者数は伸び悩んでいる。				
イ 稼働率 (%)	64.9	66.3	69.5	69.1	
稼働率の算出方法	ホール及び生涯学習施設(諸室)等における指定管理者主催事業や貸館事業等による稼働率				
市による状況分析	時間貸しの部屋については稼働率80%を超えており、平成28年度より区分貸しから時間貸しに変更となった講座室1・2については、稼働率が年々上昇している。				
ウ 利用者満足度 (%)	96.5	96.2	97.0	95.0	
利用者満足度の測定方法	文化芸術振興事業(ホール公演等)の入場者や、貸館利用者に対して実施したアンケート結果				
市による状況分析	市が求める目標である90%を常に上回っており、適切な管理運営を図ることができていると考える。				

(3)管理体制等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
ア 職員数(人) ※各年度4月現在	10	10	10	10	10
イ 職員研修(回) ※令和元年度は予定回数	13	9	10	15	9
ウ 要望、苦情等(件)	3	1	1	1	—
エ 事件、事故等(件)	1	0	0	0	—
市による状況分析	重大な事件・事故等なく管理運営できており、引き続き利用者ニーズに合うサービスの提供を行われたい。				

(4)収支状況(単位:円)

■指定管理業務

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度(予算)
ア 収入	指定管理料	86,694,348	87,300,000	87,300,000	87,269,376	88,108,000
	利用料金	22,532,600	22,718,910	22,678,060	21,459,440	24,113,000
	負担金	0	0	0	0	0
	その他収入	2,201,906	2,199,013	4,408,478	5,149,797	7,020,000
合 計		111,428,854	112,217,923	114,386,538	113,878,613	119,241,000

イ 支出	人件費	32,589,936	32,566,284	26,640,486	28,708,185	28,176,000
	委託料 ()内は総支出額 に占める委託料の割合	18,777,420 (32.2%)	17,432,394 (26.1%)	19,920,524 (37.7%)	20,682,812 (39.4%)	19,999,000 (36.5%)
	修繕費	127,008	853,848	1,089,200	954,840	800,000
	光熱水費	27,217	28,116	14,957,880	14,606,721	15,530,000
	その他経費	58,305,689	59,143,311	52,891,699	52,560,203	54,736,000
合 計		109,827,270	110,023,953	115,499,789	117,512,761	119,241,000
利用者一人当たりの支出額		893	888	1,037	827	—

ウ 収支差額	1,601,584	2,193,970	-1,113,251	-3,634,148	0
--------	-----------	-----------	------------	------------	---

エ 市への納付金の額	0	0	0	0	0
------------	---	---	---	---	---

オ 徴収委託の場合 の徴収額	—	—	—	—	—
-------------------	---	---	---	---	---

市による状況分析	文化芸術振興事業及び自主事業において集客が芳しくない事業があったことや、天災・工事による施設不使用により、利用料金収入が伸び悩んだ。
----------	--

■自主事業 (有)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度(予算)
ア 収入	3,859,411	2,941,740	2,426,402	2,603,545	2,417,000
イ 支出	5,306,954	4,678,261	3,328,438	2,616,898	2,414,000

ウ 収支差額	-1,447,543	-1,736,521	-902,036	-13,353	3,000
--------	------------	------------	----------	---------	-------

エ 市への納付金の額	0	0	0	0	0
------------	---	---	---	---	---

オ 事業数(回)	103	90	96	71	
----------	-----	----	----	----	--

カ 参加者数(人)	3,035	2,803	1,796	2,270	
-----------	-------	-------	-------	-------	--

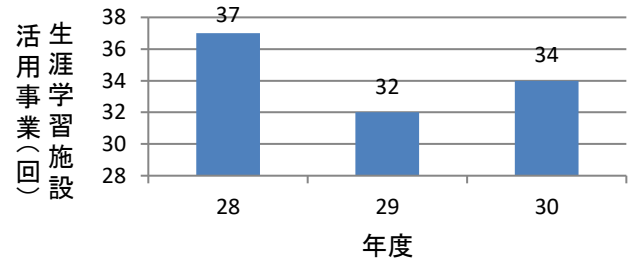
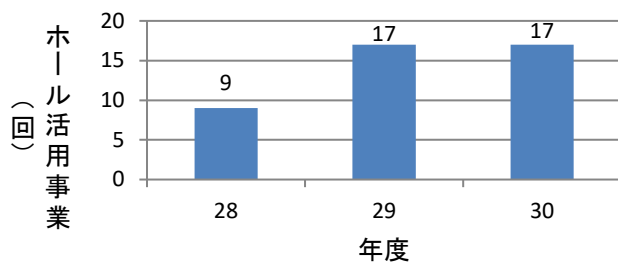
主な自主事業	ハワイアンフラフェスティバルin美原、文化講座、自動販売機管理運営業務 など
--------	--

市による状況分析	支出が収入を上回る事業が多いが、自主事業全体では赤字額が減少している。
----------	-------------------------------------

3 目標管理、評価等

(1)適正な管理運営の確保

目標管理	評価の指標	①ホール活用事業：「鑑賞型」「参加型」「普及型」公演事業の年間実施回数 ②生涯学習施設活用事業：年間実施回数	(設定理由) 市民文化の創造及び振興に寄与するための施設としての適正な管理運営の確保を評価する指標であると考えられるため。
	目標	①6回以上 ②12回以上	(設定理由) 仕様書において求める目標
	実績	①17回 ②34回	(分析) ※目標未達成時は詳細な原因分析 目標を大幅に上回った。



平等利用、維持管理、人員配置、事故対応、安全・緊急時対策等に関する特記事項

点検結果報告書等による指摘箇所があれば早急に対処するなど、施設・設備の管理業務を十分に果たすよう努めた。

利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応

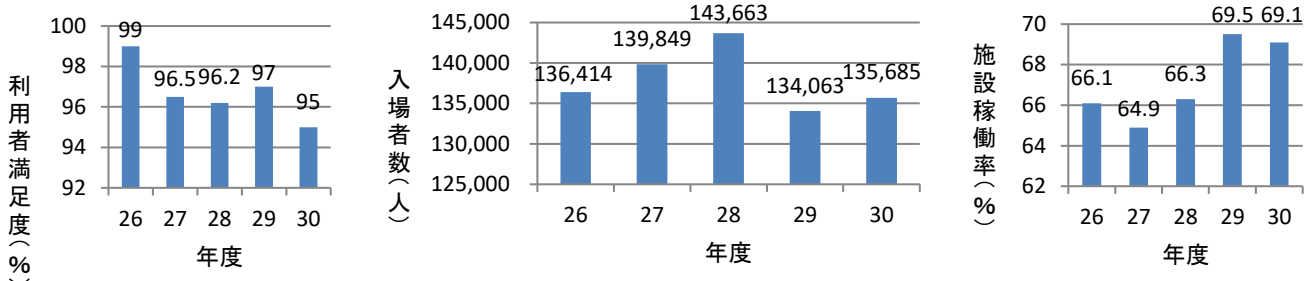
特になし

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価		
	評価	A		A	
	具体的な理由	ホール活用事業、生涯学習施設活用事業とも、事業回数を目標よりかなり多く実施できた。特に歴史セミナーをシリーズ化したことにより、実施回数を伸ばせただけでなく、リピーターが確保でき、入場者数の増加にもつながった。ただし「参加型」のホール活用事業の事業数を伸ばせず、活性化が望まれる。		ホール活用事業、生涯学習施設活用事業とともに、市が求める目標を大幅に上回る回数の実業を実施するとともに、リピーターの確保に繋げるための工夫も行われており、意欲的な姿勢が評価できる。	
対応策等	斬新な参加型事業の開発を行うなど、利用者ニーズを掘り起こすような事業展開を行う。		利用者のニーズを的確に把握するとともに、魅力的な事業の実施に向けて、より積極的に取り組まれない。		

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの

(2)利用者サービスの向上への取組

目標管理	評価の指標	①利用者満足度 ②入場者数 ③施設稼働率	(設定理由) 施設の利用し易さ、又は施設で行う事業の魅力 力を反映しやすい指標として考えられるため。
	目標	①90% ②10万人 ③70%	(設定理由) 仕様書において求める目標
	実績	①95% ②135,685人 ③69.1%	(分析) ※目標未達成時は詳細な原因分析 目標を達成することができた。



利用者サービス、利用促進、自主事業、人権尊重に配慮した情報提供、利用者意見・要望の反映等に関する特記事項

地域コミュニティにおいて会館事業の利用促進をはかるため、美原区自治連合会へ協力を求め、事業チラシの回覧を依頼した。

利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応

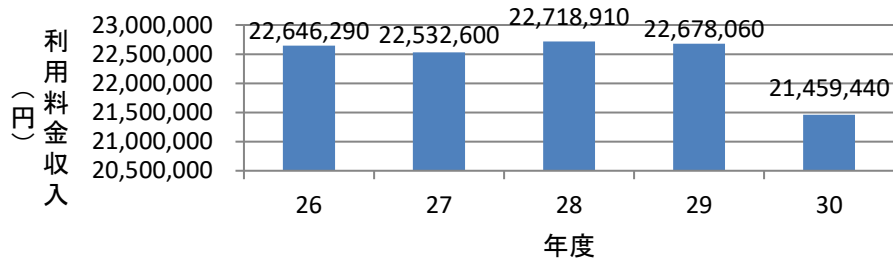
利用者ごとに室温調整の要望があり、室温切替えのタイミングを精査した上で細密な室温調整を行うなど、可能な限り利用者の要望に対応している。

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価	
	評価	A	A	A
	具体的な理由	満足度実績及び入場者実績において目標を上回ったが、生涯学習施設に比して低調なホールの稼働率が低調であることから、施設稼働率は目標を下回った。	高い水準の利用者満足度を得るとともに、昨年度を上回る入場者数を確保することができた。また、施設稼働率は目標に届かなかったものの、時間単位で利用できる制度の効果等もあり、生涯学習施設の稼働率を向上させることができています。	
対応策等	収益の見込める自主事業を企画し、ホールの稼働を高めるとともに、地元の企業や団体等に対する周知を深める。	低調なホールの稼働率向上に向けて、より幅広く利用してもらうための工夫を検討されたい。		

評価基準	S	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
	A	効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
	B	概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
	C	仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
	D	管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの

(3) 収支の実績

目標管理	評価の指標	利用料金収入	(設定理由) 指定管理者において営業努力が反映されやすい指標のひとつとして考えられるため。
	目標	22,500千円	(設定理由) 仕様書において求める目標
	実績	21,459,440円	(分析) 施設使用料に結び付かない事業の増加や、天災・工事による施設の不使用により収入が伸び悩み、目標を達成することができなかった。 ※目標未達成時は詳細な原因分析



収入増加のための取組、収支状況、経営状況、経理事務等に関する特記事項

稼働率の低かった講座室を平成28年度から時間単位で利用できる制度に変更したところ、稼働率が向上した。また、委託業務の業者選定や仕様の見直しによりコストの削減を図った。

利用者等からの意見、要望、苦情等とその対応

特になし

評価等	指定管理者の自己評価		市の評価		
	評価	B		B	
	具体的な理由	文化芸術振興事業等の、施設使用料に結び付かない事業が増加したことなどから、予算額に達しなかった。		友の会やアルテメールを刊行し、広報に力を入れ利用促進を図っている。また、経営の効率化を図るため、仕様の見直しを行うことで予算額を抑えるなど、管理コストの削減に努めていることは評価できる。	
対応策等	利用単価の高い施設の利用を高めるべく、平日のホールの利用促進を図る。		利用者がリピーターとして定着してきているが、新規顧客の開拓や、利用者ニーズにより一層応える新たな取組みを検討されたい。		

評価基準	評価	説明
S		効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を大幅に上回り(120%以上)、かつ前年度実績を上回る成果があり、特に優れているもの
A		効率的又は効果的な管理運営に資する具体的な業務改善等の取組みを行い、仕様書で求める目標や水準を上回り、かつ前年度実績を上回る成果があり、優れているもの
B		概ね仕様書で求める目標や水準どおり(80~100%)の成果があり、適正なもの
C		仕様書で求める目標や水準を下回り、努力が必要なもの
D		管理運営が適切に行われたとは認められず、改善が必要なもの